



# 教師のストレスが児童生徒のストレス・学校満足度に及ぼす影響：教師のエンパワーマントに着目して

著者	前島 光
内容記述	この博士論文は内容の要約のみの公開（または一部非公開）になっています
発行年	2019
学位授与大学	筑波大学 (University of Tsukuba)
学位授与年度	2018
報告番号	12102甲第9118号
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/00156594">http://hdl.handle.net/2241/00156594</a>

**教師のストレスが児童生徒のストレス・学校満足度に及ぼす影響  
-教師のエンパワーメントに着目して-**

筑波大学大学院 人間総合科学研究科 ヒューマン・ケア科学専攻  
健康社会学・ストレスマネジメント分野 前島光

**目的：**文部科学省によれば、平成 23 年度には、病気休職した全国の公立学校教員は、全教員の 0.93%にあたる 8,544 人で、このうち精神疾患が原因による休職者数は、休職者全体の 6 割強を占め、最近 10 年間で約 2 倍に増加した。このように教師のストレス状態が問題になるとともに、教師のストレス状態は学校で共に生活する子どもたちの心身の状態や学校生活、学習へも影響をすることが考えられる。本研究では、エンパワーメントやサポートと教師のストレスの関連や、教師のストレスと児童生徒のストレスの関連を検討することを目的とする。研究 1 では小中学校教師のストレス反応と関連する要因（ストレッサー、エンパワーメント、サポート、満足度、）について性別、勤続年数別に分析し、ストレス反応との関係性について分析する。研究 2 として、教師のストレス反応と、児童生徒のストレス反応、学校満足度、学習状況の関連について分析する。研究 3 では、エンパワーメントやサポートが教師のストレスと関連する知見を得た上で、教師のエンパワーメントやサポートが高まると考えられる学校全体の取組を実施して、教師や生徒のストレスや生徒の学校満足度に対する効果を検証する。

**対象と方法：**研究 1 の対象は、A 県 B 市の小学校 16 校、中学校 8 校に所属する、小学校教師 341 名（男性 122 名女性 219）、中学校教師 230 名（男性 142 名女性 88 名）である。職業性ストレス簡易調査票、教師の職業性ストレッサー尺度、教師のエンパワーメント尺度からなるアンケート調査を実施し、小学校と中学校それぞれ、男女と勤続年数（3 年未満、3 年から 10 年、10 年以上）別に分析した。研究 2 では研究 1 と同じ小学校と中学校のうち小学 5 年生 1264 名、中学 2 年生 1279 名と、それぞれの学校に所属する教師 571 名を対象とし、アンケート調査を実施した。教師には研究 1 と同じ尺度を用い、児童生徒に対しては、ストレスと学校満足度についてアンケートを実施し、学習状況調査の結果も用いた。研究 3 では、研究 1, 2 の調査対象校中学校 8 校のうち、中学生の学校満足度が低く学校規模がほぼ同じ 2 校を対象とし、そのうち 1 校を介入校、もう 1 校を非介入校とした。介入校では、学校内で教師全員が課題とその解決方法について共有した。5 年目の教師と 1 年目の教師がペアになり教科を超えて日常的に指導支援をし、教科会を定期的の実施し、互いの授業実践を評価し合うなどを柱とした介入プログラムを 3 ヶ月間実施した。2 校に所属する教師と中学校 2 年生を調査対象とし、介入前後に 2 回のアンケート調査を実施した。

**結果：**研究 1 は、小中学校共に、女性教師は男性教師と比較してストレッサーが高く、エンパワーメントがより低いこと、中学校の女性教師は、男性教師に比べて、ストレス反応が高く、周囲のサポートや満足感が低く、より大きなストレスを抱えていることが示された。勤続年数別の分析では、小中学校ともに 3 年未満の教師は、10 年以上の教師より、エンパワーメントがサポートに強く影響することが示された。また、3 年未満の教師の評価懸念とエンパワーメントは強い負の相関関係が示された。研究 2 では、小中学校共に教師ストレスが大きいほど児童の心理的ストレスが低下する結果を示した。学校満足度は、小学校教師のストレスと児童の学校満足度は正の相関がみられ、中学校では、教師のストレスと、中学生の学校満足度が負の相関がみられ、小学生と中学生では異なる関係性がみられた。学習状況調査については、中学校で、教師のイライラ感や身体愁訴と正の相関が示された。研究 3 では、介入校において、プログラム実施後、女性教師の同僚性サポートが高まり、勤続年数、3 年未満の教師の組織ストレッサーとストレス反応が有意に低下した。また、介入校の中学生の学校満足度が有意に上昇した。

**考察：**研究 1 では、教師のストレス対策として、サポートを向上することが重要であり、また、サポートを向上するには、エンパワーメントを高めることが重要であることが示唆された。勤続 3 年未満の教師や女性教師は、小中学校ともにエンパワーメントが有意に低いことから、エンパワーメントを高めることが特に重要と考えられた。研究 2 では、教師のストレスと児童生徒のストレスの負の相関結果から、小中学校教師ともストレスを抱えながら子どもたちのストレスの緩和に努力していることが伺われた。学校満足度に関して小学校は、学級担任制で教師は、ストレスを感じていたとしても、きめ細やかな指導や対応を行うことが児童の学校満足度の向上につながっていることが考えられる。しかし、中学校は、学級担任制ではないことや、生徒が多感な時期であることなどから、教師のイライラ感や疲労感を、中学生が敏感に感じ取り、それに伴い学校満足度が低下することが推察された。研究 3 では、介入校において、女性教師の同僚性サポートが高まり、勤続年数別では、3 年未満の教師の組織ストレッサーと、ストレス反応が低下した。また中学生の学校満足度も高まった。したがって、今回の介入プログラムは有用な可能性が示された。

**結論：**今後、より広い地域と学年を対象とした検討が必要であるが、本研究の結果から、小学校、中学校教師ともにストレスの軽減にエンパワーメントやサポートが重要なこと、小学校、中学校ともに教師のストレスは児童生徒のストレスや学校満足度に関連すること、本研究で実施したプログラムは、女性教師や 3 年未満の教師のストレッサーやストレス反応の低下や、中学生の学校満足度の改善などの効果がみられる可能性などが示唆された。